

## VI. 参考資料

### 1. 英国 Joint Skills Statement 全文(和訳)

#### ジョイントスキル宣言 (Joint Skills Statement)

研究評議会 (Research Councils) は、研究訓練における基準を定めること及び最良の取り組みを特定する機関である。ジョイントスキル宣言 (2001 年) は、研究評議会から資金援助を受けている博士課程の研究生が、研究訓練期間中に取得することを期待される技能に関する共同宣言である。

これら技能は、研究開始時に有するか、研究実施期間中に指導もしくは育成される。技能取得を支援するために、様々な手法が適宜使用されるものと想定されている。研究評議会は、調査能力と技術に関する訓練が研究生の育成において重要な要素であり、雇用に関連した幅広い技能の開発は研究生の主要研究目的を補完するものであると確信している。本宣言の目的は、研究生の技能と経験に関する共通認識を与えることであり、その結果として、大学に対して、すべての研究訓練がすべての分野に渡り最高水準のものであることを確保する上で助けとなることを目指した、明確且つ一貫したメッセージを提示することである。

#### 技能訓練要件

##### A) 求められる研究能力と技能

- 問題を認識し実証する能力
- 独自の独立した批判的思考、および理論的概念を開発する能力
- 自身の研究分野および関連分野における最近の進歩に関する知識
- 関連研究方法論と技術に関する理解、および自身の研究分野におけるこれら方法論と技術の適切な応用
- 自身および第三者の調査結果を批判的に分析、評価する能力
- 進捗に関して要約、記録、報告および検討する能力

##### B) 以下を可能とする研究環境

- 国家および国際的水準において、研究が実施される背景に関する幅広い理解を示す。
- データの機密性、倫理的問題、帰属性、著作権、誤用、およびデータ保護法 (Data Protection Act) の要件といった、他の研究者の権利、研究課題の権利および研究によって影響を受ける可能性のある第三者の権利に関連した問題に対する認識を実証する。
- 従事する研究機関および/または研究分野における良好な研究実践基準に対する尊重

を実証する。

- 当該の健康および安全上の課題を理解し、責任ある労働慣行を実証する。
- 研究の資金および評価に関する手続きを理解する。
- 自身の研究において使用された原則と実験技術の正当性を証明する。
- 研究結果の学術的または商業的開発のプロセスを理解する。

#### C) 以下を可能とする研究管理

- 研究目標、中間目標および活動の優先順位を設定することで、効果的なプロジェクト管理を実施する。
- 適切な資源と設備を効果的に使用することで、情報の入手および照合のためのシステムを設計し、実施する。
- 適切な書誌資源、アーカイブ、および関連情報に関するその他出典元を特定し、入手する。
- データベース管理、情報の記録および提示に適した情報技術を使用する。

#### D) 以下を可能とする個人の能力

- 学習し、知識を取得する意欲と能力を実証する。
- 研究に対する自身の取り組みにおいて創造性があり、革新的および独創的である。
- 柔軟性と寛容性を実証する。
- 自己認識、および自身の訓練の必要性を特定する能力を実証する。
- 自己規律、意欲、および徹底を実証する。
- 限界を認識し、支援源を適宜活用する。
- 自発性を示し、自主的に作業し、自立する。

#### E) 以下を可能とするコミュニケーション能力

- 経過報告書、公開文書、論文など、目的に適したスタイルで明瞭に文章を記述する。
- 一貫性のある議論を構築し、様々な技術を通じて公式および非公式に様々な聴衆に対して明確に考えを示す。
- 講義および口述試験において、研究結果を建設的に弁護する。
- 自身の研究分野に対する国民の理解の促進に寄与する。
- 教務、指導または活動の実演に関与した際、他者の学習を効果的に支援する。

#### F) 以下を可能とする人脈作りと共同作業

- 研究機関およびより幅広い研究コミュニティにおいて、監督官、同僚および同輩との協力的なネットワークと作業関係を築き、維持する。
- 公的および非公的チームで作業を行い、同チームの成功に寄与する際、自身の行動と他者への影響を理解する。

- 鋭敏に他者の意見に傾聴、応答し、他者の意見を取り入れ、他者に対して意見を提供する。

**G) 以下を可能とするキャリア管理**

- 継続的な専門能力開発の必要性を認識し、これに対する責任を示す。
- 自己のキャリア発展に対して責任を持ち、これを管理し、現実的且つ達成可能なキャリア目標を設定し、就職の可能性を見極め、これに向けた方法を開発する。
- 他の作業環境への調査技能の転用可能な特性および学術内外における就職機会の範囲に関する理解を示す。
- 効果的な履歴書、応募およびインタビューを通じ、個人の技能、個人的特性および経験を提示する。

**2001 年ジョイントスキル宣言 (Joint Skills Statement)**

## 2. ドイツにおけるアカデミック・キャリア支援プログラム

図表 VI-1 ドイツにおけるキャリア支援プログラム

取り組み名称	実施主体	特徴
エミー・ヌーター・プログラム	ドイツ研究協会 (DFG)	両プログラムともに若手研究者を独り立ちさせることを目的としている
ハイゼンベルク・プログラム		
エラスムス・ムンデウス	ドイツ学術交流会 (DAAD)	連合大学院を組成し、複数のキャンパスで学ぶことが修了の必須条件となっている
検索プログラムの設置	ドイツ科学助成財団連盟	奨学金を設置している財団の検索プログラムを Web 上に設置

### i. エミー・ヌーター・プログラム及びハイゼンベルク・プログラム(ドイツ研究協会)

#### i-1. 取組みの背景・目的

博士号を取得した学生を対象としたプログラムであり、通常は外国で研究していた経験のある若手研究者を対象に、2年間の助成を実施する。若い研究者が独立して研究活動を進めていくことを目的としており、他の教授などの下働きをするのではなく、自らの設定するテーマに対して大きな規模で研究を実施することができるようにしている。

#### i-2. 実施規模

##### (エミー・ヌーター・プログラム)

対象は年間 80～100 人であり、5年間継続して受給が可能である。この助成を受けた若手研究者は基本的には研究者になる。ほとんどが大学に残るが、一部はマックス・プランクなどの公的な研究所に勤める研究者もいる。ただし、教授資格（ハビリタツィオン）を取らない者はほとんどない。

##### (ハイゼンベルク・プログラム)

エミー・ヌーター・プログラムとは異なり、より高いレベルにある研究者（ハビリタツィオン取得者）が対象となる。教授資格を持っているが、ポストがないという研究者のために実施されている。期間や人数は同様に、年間 100 人くらい、5年間の継続プログラムである。

#### i-3. 実施内容

日本の学振特別研究員制度とは異なり、雇用ではなく、研究費を給付する形態を取っており、科研費を継続的に給付する形態に近い。それぞれの研究者はいずれか

の大学に所属するが、大学にその後の雇用義務があるわけではない。逆に言えば、優秀な若手研究者であればどこに行っても自由である。

応募し、受給が確定した研究者は、申請したテーマに基づいて研究を実施する。研究者が個別に助手などを雇用することはこの枠の中で実施しており、旅費や本などの研究費もこの枠内から支出することができる。なお、審査は経歴書（実績）、刊行物（論文）、研究テーマについて行う。ただし、その中で最も重視されるのはプログラム実施中にどのような研究を行うかについてである。

#### i-4. 本取組みの効果と課題

効果としては、非常に優秀な若手研究者の独り立ちを早めたことが挙げられる。常に下働きのような過程を経てきた優秀な研究者がすぐに独り立ちできるシステムを作ったことは非常に有効であったと考えている。

ただし、理系のプログラムが中心になっていることが課題であり、哲学などでは、当該プログラム以外にも奨学金制度が少ないのが現状と言える。

日本と似た問題も存在している。学生の減少傾向や、大学での滞留、経済的支援が足りないことも変わらない。また、研究者を育成する体系的なプログラムがないことも関係者は認識している。

### ii. エラスムス・ムンデユス(ドイツ研究協会)

#### ii-1. 取組みの背景・目的

エラスムス・ムンデユスのそもそもの目的は連合大学院を EU 内で組成することである。第 1 期のエラスムス・ムンデユス（以下 EM）は、2004 年から 2008 年まで。ここでは 3,200 万ユーロで①修士課程への奨学金、②その他の学生への奨学金、③「第 3 世界（アジア、アフリカ、中南米）」の生徒を対象にした奨学金、④ヨーロッパの大学の市場開拓を実施した。うち、①はプロジェクトごとに資金を給付するもので、3 つ以上の大学がコンソーシアムを組んで応募する形式を取っている。

#### ii-2. 実施規模

これによって（日本における連合大学院のような）連合学科が 103 作られ、それぞれに対して資金が支払われた。ヨーロッパ内の学生だけでなく、海外からの留学生に対しても奨学金が支払われた。2009 年から第 2 期がスタートしている。

第 2 期は 9 億 3,000 万ユーロの資金で実施する。また、これまで EM とは異なる枠組みで実施していた交換留学のプログラムも EM に組み込んでいる。

2009 年度は、50 の修士プログラムと 13 の博士プログラムが認定された。毎年新たに申請→交付のプロセスを積み重ねている。1 プログラムの中で、修士課程学生は 17 人、博士課程学生は 10 人まで雇い入れることが可能である。

### ii-3. 実施内容

この課程の大学院に入学すると、学生は最低でも 2 大学は回って研究・勉強することが求められる。ただしこの中で、学生は教育学と経済学のようなダブル・ディグリー、あるいは教育経済学のようなジョイント・ディグリーを取得することが可能である。

またこの連合学科は、ヨーロッパ内の大学だけでなく、アジアなど他地域の大学が参加しても問題ない。また、第 2 期の EM では、他地域の大学がプライムを取ってもこの仕組みを利用できるようになっている。

欧州委員会からは、ヨーロッパの学生だけでなく、地域外の学生も入学させることが求められている。なお、奨学金（1,600 ユーロ/月）は地域外の学生しか受給することができない。

2009 年に第 2 期をリリースしたときの変更点としては、全体的にコンパクトにすることが第一とされた。ヨーロッパの大学だけで連合を作ってから地域外の大学に参加してもらうのではなく、いきなり地域外の大学が参加することも可能となった。また、修士課程学生だけではなく、博士課程の学生も対象となり（2 大学以上を回らないといけないのは修士課程と同様の条件）、欧州地域の学生も奨学金を受給が可能となった。

### ii-4. 本取組みの効果と課題

5 年間実施してみた結果続けることになったが、確実に効果があったと言える段階にはまだない。ただし欧州全体に効果があると考えて続けている。留学生の支援及び大学の国際化を目指してスタートしたプログラムであるが、ヨーロッパ内の学生についても大きく意味のあるプログラムとなっている。

ドイツ学術交流会は、博士課程学生の待遇をよりよくすることが重要であると考えている。ただ、徒弟制ではなく、アドバイザーとなる教員を複数集める形式などを検討している。グループで協働する力やプレゼンテーションスキルをより向上させることは重要だと考えており、グループ制の研究システムをより取り入れることを検討している。

## iii. 検索プログラムの設置(ドイツ科学助成財団連盟)

### iii-1. 取組みの背景・目的

1920 年に当該連盟の前組織がドイツの経済イニシアティブとして設立されており、現在は 430 の財団法人が加盟している。この機関は、経済界からの大学向けの投資、またそれに加えて個人的な奨学金も実施している。奨学金は 430 の法人合わせて 1 億 2,100 万ユーロである。

その中で、財団連盟に登録している財団の奨学金をすべて見ることができる検索プログラムを財団の HP 内に設置している。

### iii-2. 実施規模

この機関は、経済界からの大学向けの投資、またそれに加えて個人的な奨学金も実施している。奨学金は 430 の法人合わせて 1 億 2,100 万ユーロである。

### iii-3. 実施内容

430 財団が当該連盟に加盟しており、連盟のホームページに入っている「検索エンジン」は、この 430 の財団のリストと、受給できる奨学金が入っている。ただし、ドイツには約 17,000 の財団があり、そのうち 430 が収録されているに過ぎない。

この 430 の財団はいずれも中小規模であり、大きい団体は入っていない。もっとも、大きい団体であれば自らで広報も選考も可能であり、また知名度も高いために学生に対して積極的に広報する必要がないかもしれず、中小規模の財団が中心になっていること大きな問題ではないと考えられる。HP は月間約 10 万ページビューある。

### iii-4. 本取組みの効果と課題

ドイツ研究協会（DFG）と同様に、財団連盟も博士課程学生をどのように支援していくべきかを再検討すべき時期にあると指摘されている。

昔の博士課程学生に対して外部の支援があまり期待されていなかった一方で、今それらが非常に期待されていることは博士課程学生に関して生活するための問題があるという理解がなされている。

### 3. 学生アンケート調査票

#### 事前調査

☆このアンケートは大学生・大学院生にお伺いします。該当する選択肢に○をつけてください。

問1 あなたの性別を教えてください。

1. 男
2. 女

問2 あなた今、何年生ですか。

※ここで「修士」「博士前期」は、ともに大学院前期2年間の課程を指しますが、それぞれ「修士」は「修士課程」に在学、「博士前期」は「博士前期課程」「一貫性博士課程の前期」に在学と区別します。

また「博士課程・博士後期課程」は、大学院後期3年間の「博士課程」「博士後期課程」「一貫性博士課程の後期3年」を全て含めることとします。

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1. 学部2年生以下         | 7. 博士前期1年生          |
| 2. 学部3年生           | 8. 修士2年生以上          |
| 3. 学部4年生以上         | 9. 博士前期2年生以上        |
| 4. (6年制学部の)学部5年生   | 10. 専門職学位課程に在学中     |
| 5. (6年制学部の)学部6年生以上 | 11. 博士課程・博士後期課程に在学中 |
| 6. 修士1年生           | 12. 学生ではない          |

問3 あなたの所属する大学の種類は何ですか？

1. 国立大学
2. 公立大学
3. 私立大学

問4 あなたの通っている大学の所在地はどこですか。

都道府県を選択（プルダウンメニュー）

問5 あなたの専攻分野は何ですか。

- |                        |             |
|------------------------|-------------|
| 1. 人文科学（文学、史学、哲学など）    | 7. 薬学       |
| 2. 社会科学（法学、商学、政治経済学など） | 8. 保健（看護など） |
| 3. 理学                  | 9. 教育       |
| 4. 工学                  | 10. 芸術      |
| 5. 農学                  | 11. その他     |
| 6. 医学・歯学               |             |

問6 あなたは社会人経験（官公庁・企業等に就職し、勤務した経験）がありますか。あるならば、それは何年間ですか。

1. なし
2. 1年未満
3. 1年以上2年未満
4. 2年以上3年未満
5. 3年以上

## 本調査

このアンケートでは、大学生・大学院生（修士・博士前期）のみなさんの、大学院博士課程に関するイメージやお考えについてお聞きします。

※ここで博士課程とは、「博士課程」とは、大学院における「博士課程」「博士後期課程」「一貫性博士課程の後期3年」を指すものとします。

※本調査は文部科学省から株式会社野村総合研究所への調査委託をして行う調査で、取りまとめられたアンケート分析結果は文部科学省から公表される予定です。

☆以下の問いで、それぞれ該当する選択肢に○をつけてください。

- ※ ここで「修士課程」とは、「修士課程」「博士前期課程」「一貫性博士課程の前期 2 年」を指すものとします。  
また「博士課程」とは、「博士課程」「博士後期課程」「一貫性博士課程の後期 3 年」を指すものとします。  
(上記の名称と異なる区分名でも、原則として大学院前期 2 年を修士課程、後期 3 年を博士課程とします)

#### 問1

問 1-1 あなたは博士課程への進学を考えていますか。(○は 1 つだけ)

1. 進学するつもりである
2. 進学するか否か、考えている最中である
3. 進学するか否か、考えたことはあるが、進学しないことに決めた
4. 進学するか否か、今は考えていないが、いずれ考えるつもりである
5. 進学するか否か、考えたことはなく、今後考えるつもりもない

問 1-2 (問 1-1 で「1」または「2」を選択された方にお伺いします) 博士課程に進学するとしたら、どの大学の、どの分野の博士課程に進学しますか。(○は 1 つだけ)

1. 現在所属している大学でかつ現在の専攻分野の博士課程
2. 現在所属している大学だが現在とは異なる専攻分野の博士課程
3. 他の大学でかつ現在の専攻分野の博士課程
4. 他の大学だが現在とは異なる専攻分野の博士課程
5. まだ決めていない

問 1-3 (問 1-2 で「2」「3」「4」を選択された方にお伺いします) 現在所属している大学・専攻分野とは異なる博士課程に進学しようと思うのはなぜですか。(○は 1 つだけ)

1. 他の専攻・他の大学の博士課程の方が魅力的だから
2. 現在所属している専攻分野・大学の博士課程への進学は、競争率が高く難しいから
3. 現在所属している専攻分野・大学に博士課程はあるが、そこでは希望する分野を学ぶことができないから
4. 現在所属している専攻分野・大学に博士課程がないから
5. 指導教官や家族など、他者からの勧めがあったから

問2 あなたは大学院にどのようなイメージを持っていますか。修士課程と博士課程それぞれについてお答え下さい。

※修士課程学生の方は、在学者の立場からのイメージをお答えください。

問2-1 大学院の機関としてのイメージ（それぞれ○は1つだけ）

A. 修士課程のイメージ

	① そう思う	② どちらかと言うと そう思う	③ どちらでもない	④ どちらかと言うと そう思わない	⑤ そう思わない	⑥ わからない
(4) 国際的に高いレベルの研究成果を創出している	1	2	3	4	5	6
(13) 研究施設・設備等が整っている	1	2	3	4	5	6
(1) 研究レベルについて行くのが難しそう	1	2	3	4	5	6
(2) 自分の研究したいテーマが充実している	1	2	3	4	5	6
(5) 生み出した知見が社会に発信され理解・活用されている	1	2	3	4	5	6
(6) 学生が研究成果に応じて賞賛・名誉を受ける場がある	1	2	3	4	5	6
(7) 研究室での充実した研究指導が行なわれている	1	2	3	4	5	6
(10) 目的に応じて計画的に組まれた講義・演習が行われている	1	2	3	4	5	6
(11) 企業との提携（インターンシップ、共同研究等）の機会が充実している	1	2	3	4	5	6
(12) 海外の大学への留学や国際学会等への参加などの国際的な教育・研究の機会が充実している	1	2	3	4	5	6
(8) 社会で求められる能力（協調性、考える力、リーダーシップ等）を身に付けることができる	1	2	3	4	5	6
(9) 進路支援・就職支援が充実している	1	2	3	4	5	6

## B. 博士課程のイメージ

	① そう 思う	② どちら かと言 うと そう思 う	③ どちら でも ない	④ どちら かと言 うと そう思 わない	⑤ そう 思わな い	⑥ わか らない
(4) 国際的に高いレベルの研究成果を創出している	1	2	3	4	5	6
(13) 研究施設・設備等が整っている	1	2	3	4	5	6
(1) 研究レベルについて行くのが難しそう	1	2	3	4	5	6
(2) 自分の研究したいテーマが充実している	1	2	3	4	5	6
(5) 生み出した知見が社会に発信され理解・活用されている	1	2	3	4	5	6
(6) 学生が研究成果に応じて賞賛・名誉を受けられる場がある	1	2	3	4	5	6
(7) 研究室での充実した研究指導が行なわれている	1	2	3	4	5	6
(10) 目的に応じて計画的に組まれた講義・演習が行われている	1	2	3	4	5	6
(11) 企業との提携（インターンシップ、共同研究等）の機会が充実している	1	2	3	4	5	6
(12) 海外の大学への留学や国際学会等への参加などの国際的な教育・研究の機会が充実している	1	2	3	4	5	6
(8) 社会で求められる能力（協調性、考える力、リーダーシップ等）を身に付けることができる	1	2	3	4	5	6
(9) 進路支援・就職支援が充実している	1	2	3	4	5	6

問 2-2 大学院に所属する学生のイメージ（それぞれ○は1つだけ）

A. 修士課程の大学院生のイメージ

知識の深さ(専門性)	身に付けている 1	← 2	どちらでもない 3	→ 4	身に付けていない 5	わからない ○
知識の幅広さ(多様な教養)	身に付けている 1	← 2	どちらでもない 3	→ 4	身に付けていない 5	わからない ○
研究者としてのキャリアの将来性	ある 1	← 2	どちらでもない 3	→ 4	ない 5	わからない ○
研究者以外のキャリアの将来性	ある 1	← 2	どちらでもない 3	→ 4	ない 5	わからない ○
教員や他の学生との活発な議論	ある 1	← 2	どちらでもない 3	→ 4	ない 5	わからない ○
在学中の生活水準の保障	保障されている 1	← 2	どちらでもない 3	→ 4	保障されていない 5	わからない ○
優れた人材の進学状況 (同年代の社会人と比べて)	進学している 1	← 2	どちらでもない 3	→ 4	進学していない 5	わからない ○
在学中の社会的ステータス (同年代の社会人と比べて)	高い 1	← 2	どちらでもない 3	→ 4	低い 5	わからない ○
かつこよさ (同年代の社会人と比べて)	かつこいい 1	← 2	どちらでもない 3	→ 4	かつこ悪い 5	わからない ○

## B. 博士課程の大学院生のイメージ

	身に付けている	←	どちらでもない	→	身に付けていない	わからない
知識の深さ(専門性)	1	2	3	4	5	○
	身に付けている	←	どちらでもない	→	身に付けていない	わからない
知識の幅広さ(多様な教養)	1	2	3	4	5	○
	ある	←	どちらでもない	→	ない	わからない
研究者としてのキャリアの将来性	1	2	3	4	5	○
	ある	←	どちらでもない	→	ない	わからない
研究者以外のキャリアの将来性	1	2	3	4	5	○
	ある	←	どちらでもない	→	ない	わからない
教員や他の学生との活発な議論	1	2	3	4	5	○
	保障されている	←	どちらでもない	→	保障されていない	わからない
在学中の生活水準の保障	1	2	3	4	5	○
	進学している	←	どちらでもない	→	進学していない	わからない
優れた人材の進学状況 (同年代の社会人と比べて)	1	2	3	4	5	○
	高い	←	どちらでもない	→	低い	わからない
在学中の社会的ステータス (同年代の社会人と比べて)	1	2	3	4	5	○
	かつこいい	←	どちらでもない	→	かつこ悪い	わからない
かつこよさ (同年代の社会人と比べて)	1	2	3	4	5	○

問3 ※問 1-1 にて、1～3 のいずれかを選ばれた方のみお答え下さい

問 3-1 あなたにとって、博士課程進学を決断を阻害する要素は何ですか。最もよくあてはまるものをお選び下さい。(下記のうち、○は4つまで)

**研究レベル・テーマ**

1. 国際的に高いレベルの研究に取り組めないこと
2. 研究レベルについて行く事が難しそうであること
3. 自分の研究したいテーマが充実していないこと

**大学院の研究・教育の環境・体制**

4. 研究施設・設備が整っていないこと
5. 自分にとって魅力的な指導者がいないこと
6. 研究室での充実した研究指導が行われていないこと
7. 目的に応じて計画的に組み込まれた講義・演習が行われていないこと
8. 在学中の生活水準が保障されていないこと
9. 教員や他の学生との議論の場が少ないこと
10. 修士課程から博士課程への進学にあたって、研究室・大学・専攻を変えることが困難であること

**大学院と社会との繋がり**

11. 生み出した知見が社会で理解・活用されないこと

12. 研究成果に応じて賞賛・名誉を受ける場がないこと

**他の進路を選ぶ同年代との比較**

13. 周囲の優れた人材が進学していないこと
14. 在学中の社会的ステータスが低いこと
15. 博士取得後の社会的ステータスが低いこと

**他の選択肢との比較**

16. 博士課程に進学するよりも企業で働くほうが魅力的であること

**将来の進路・就職**

17. 大学・公的研究機関の研究者としての就職の見込みがないこと
18. 企業の研究者としての就職の見込みがないこと
19. 研究者以外の職業（企業・官公庁への一般就職等）への就職の見込みがないこと
20. その他

[ ]

問 3-2 一方で、あなたにとって、博士課程進学を決断を後押しする要素は何ですか。最もよくあてはまるものをお選び下さい。(下記のうち、○は4つまで)

研究レベル・テーマ

1. 国際的に高いレベルの研究に取り組めること
2. 研究レベルについて行く自信があること
3. 自分の研究したいテーマが充実していること

大学院の研究・教育の環境・体制

4. 研究施設・設備が整っていること
5. 自分にとって魅力的な指導者がいること
6. 研究室での充実した研究指導が行われていること
7. 目的に応じて計画的に組まれた講義・演習が行われていること
8. 在学中の生活水準が保障されていること
9. 教員や他の学生との議論の場が充実していること
10. 修士課程から博士課程への進学に当たって、研究室・大学・専攻を変えやすいこと

大学院と社会との繋がり

11. 生み出した知見が社会で理解・活用されやすいこと
12. 研究成果に応じて賞賛・名誉

を受ける場が充実していること

他の進路を選ぶ同年代との比較

13. 周囲の優れた人材が進学していること
14. 在学中の社会的ステータスが高いこと
15. 博士取得後の社会的ステータスが高いこと

他の選択肢との比較

16. 博士課程に進学するほうが企業で働くよりも魅力的であること

将来の進路・就職

17. 大学・公的研究機関の研究者としての就職の見込みがあること
18. 企業の研究者としての就職の見込みがあること
19. 研究者以外の職業（企業・官公庁への一般就職等）への就職の見込みがあること
20. その他

[ ]

問4 博士課程が今よりもさらに魅力的になるためには、あなたはどのような活動や研究の舞台・仕組みが充実するべきだと思いますか。（下記のうち、○は3つまで）

**大学院の研究・教育の環境・体制**

1. 自分自身の研究についてその内容及び時間に裁量があること
2. 分野・専攻を超えた学問交流・融合
3. 国際的な学術交流（海外での研究インターン、海外の大学への留学、国際学会、海外機関との共同研究など）
4. 目的に応じて計画的に組まれた講義・演習
5. 指導者・研究者としての教官の質の高さ
6. 教育・研究指導を受ける機会
7. 学費・生活費に対する経済的支援

**大学院と社会の繋がり**

8. 企業との関わり（連携授業、共同研究、インターンシップなど）
9. 大学発ベンチャー企業での活動
10. 社会との関わり（学会・学術会以外の一般社会に向けた情報発信など）

**将来の進路・就職**

11. 博士課程に対応した就職支援の取り組み
12. その他

[ ]

お疲れ様でした。アンケートは以上になります。

#### 4. 学生アンケート調査 単純集計



### 大学院博士課程のイメージに関するアンケート

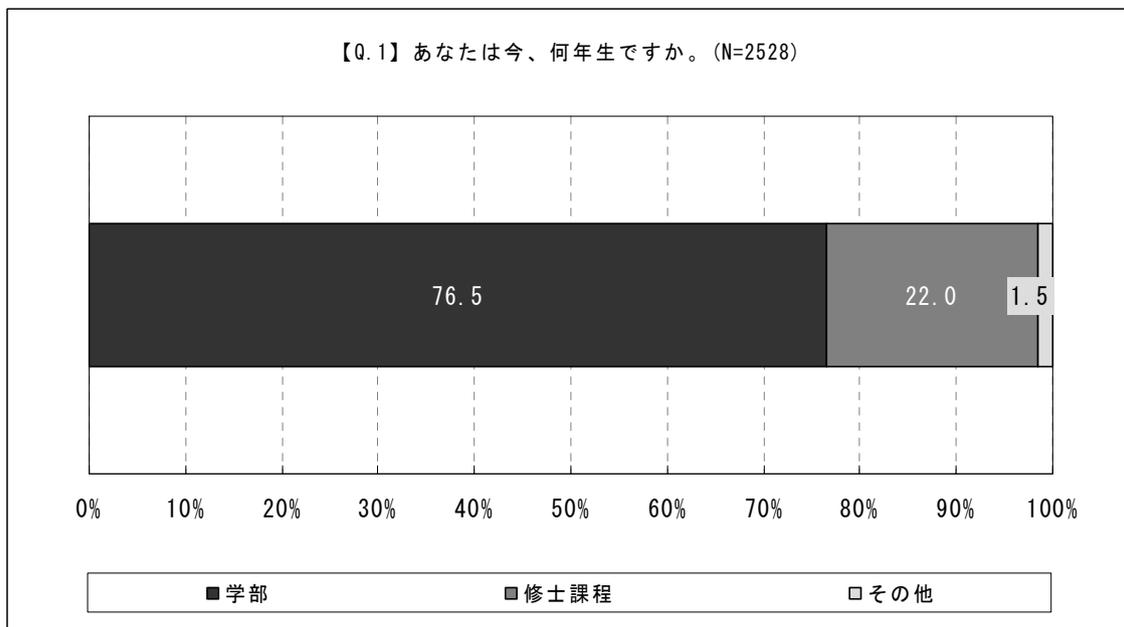
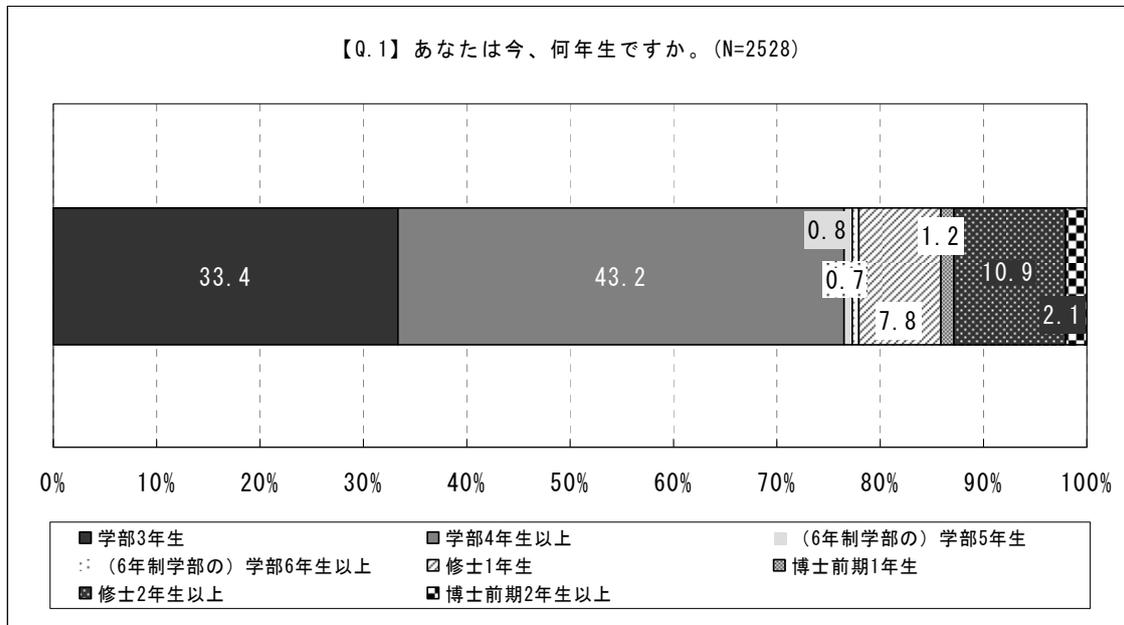
#### 調査概要

■ 調査名	博士課程に関する調査
■ 調査ID	TN080162
■ 調査票タイトル	大学院博士課程のイメージに関するアンケート
■ 実施方法	インターネットリサーチ
■ 調査期間	2008年12月15日（月）～2008年12月22日（月）
■ 回収サンプル数	2528
■ 備考	

## 単純集計

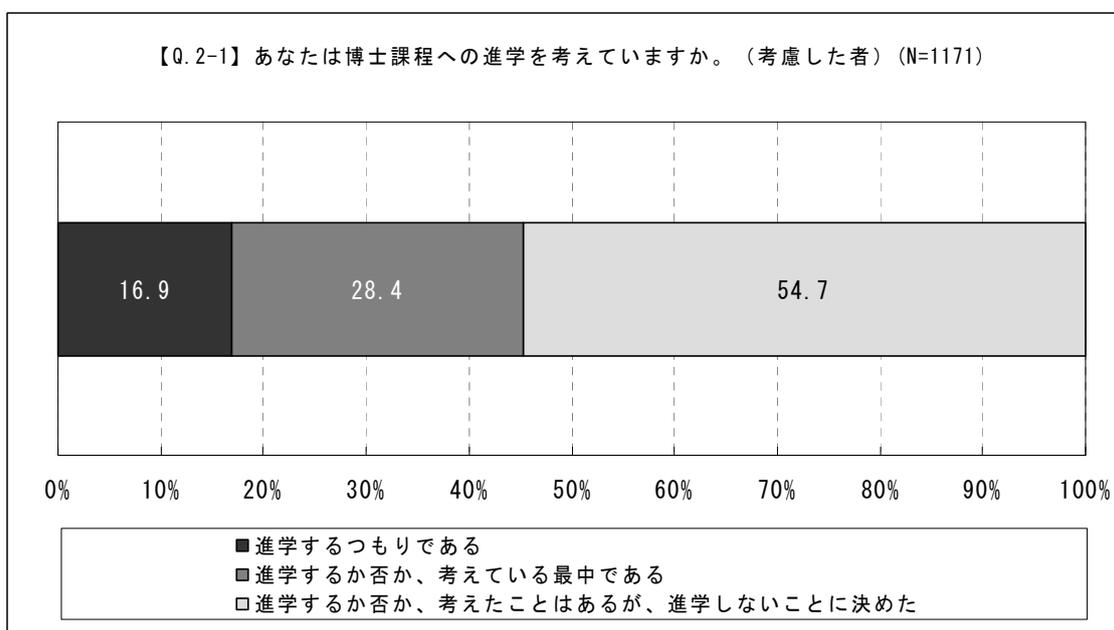
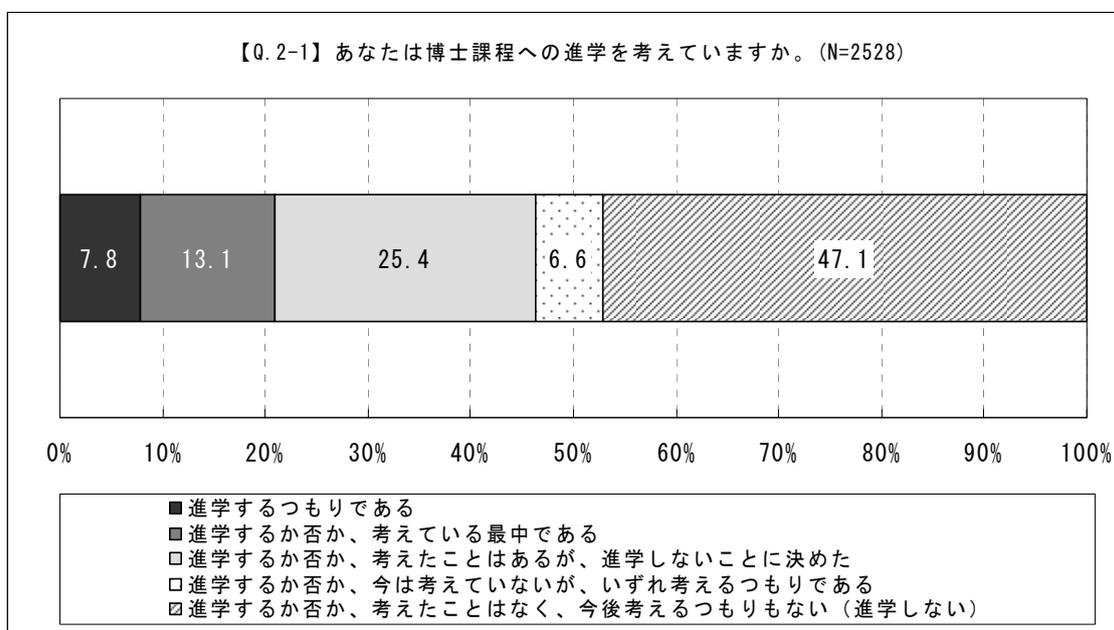
### <属性-1>

【Q.1】あなたは今、何年生ですか。(ひとつだけ)

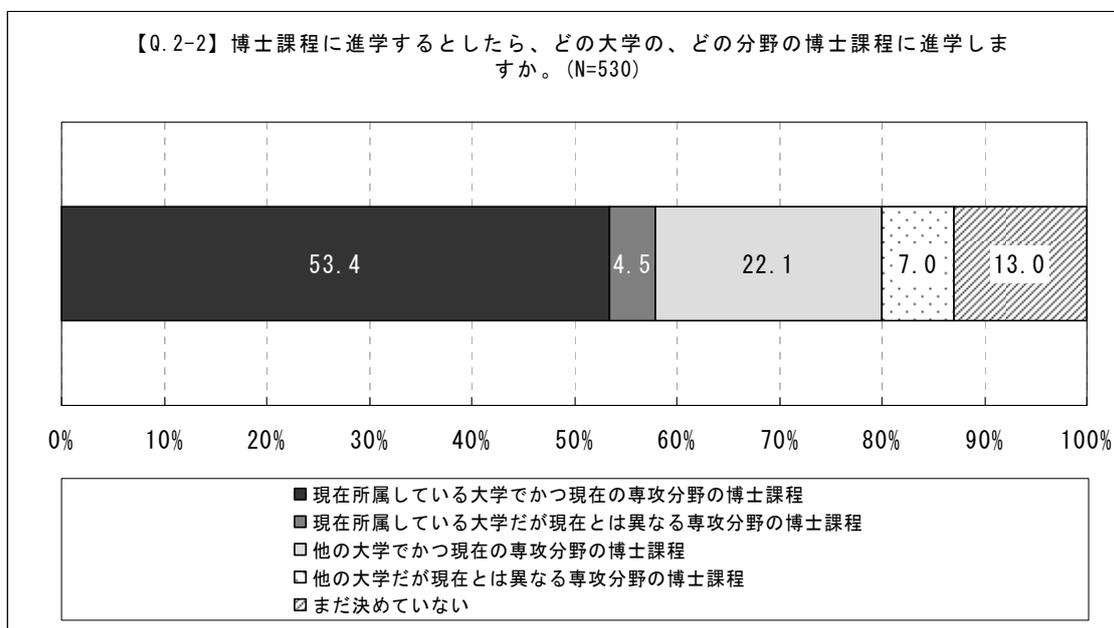


## <大学院博士課程に関するイメージや考えについて>

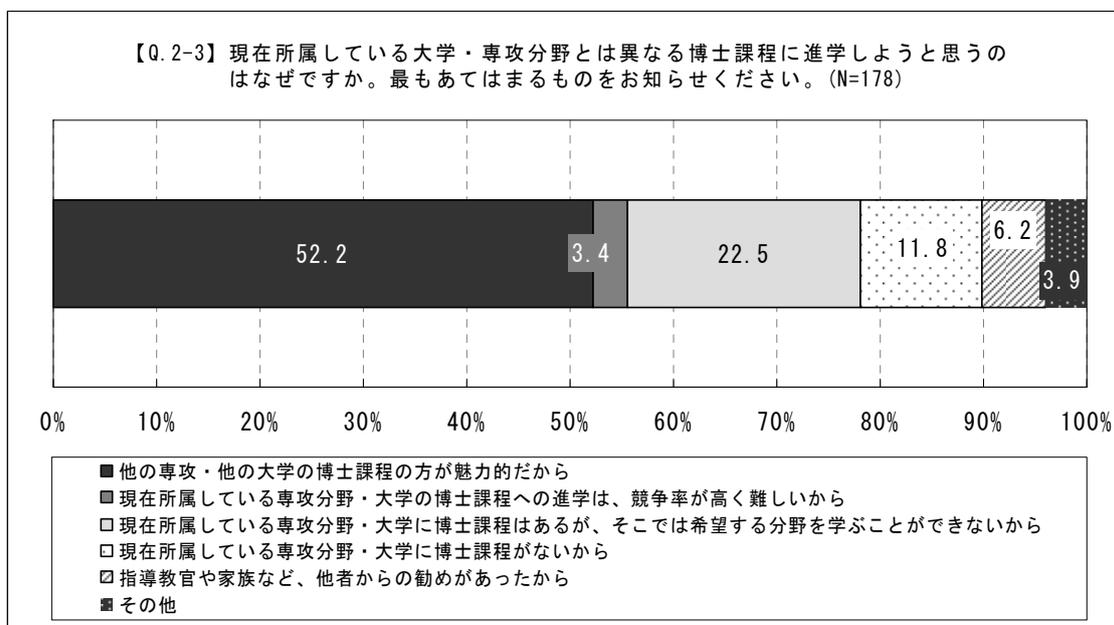
【Q.2-1】あなたは博士課程への進学を考えていますか。(ひとつだけ)



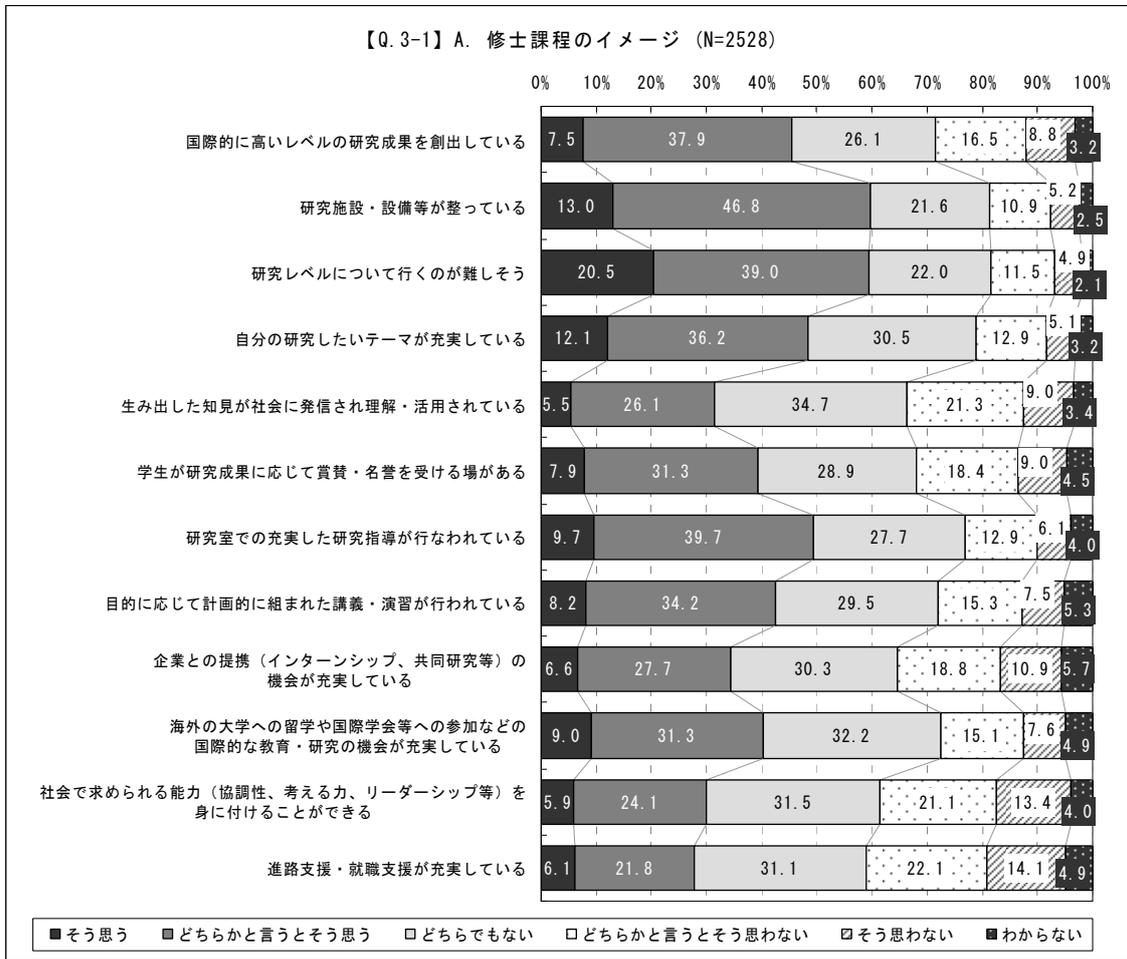
**【Q.2-2】博士課程に進学するとしたら、どの大学の、どの分野の博士課程に進学しますか。  
(ひとつだけ)**



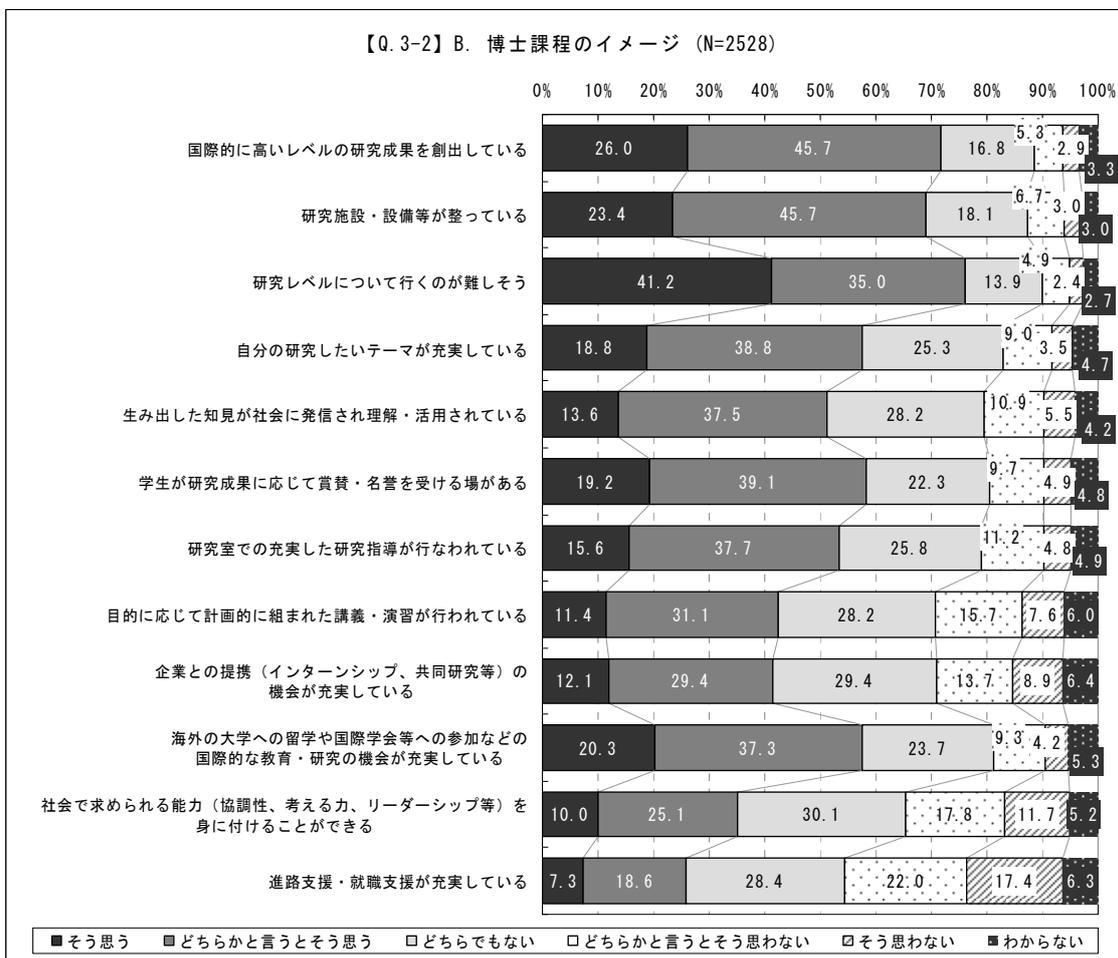
**【Q.2-3】現在所属している大学・専攻分野とは異なる博士課程に進学しようと思うのはなぜですか。最もあてはまるものをお知らせください。(ひとつだけ)**



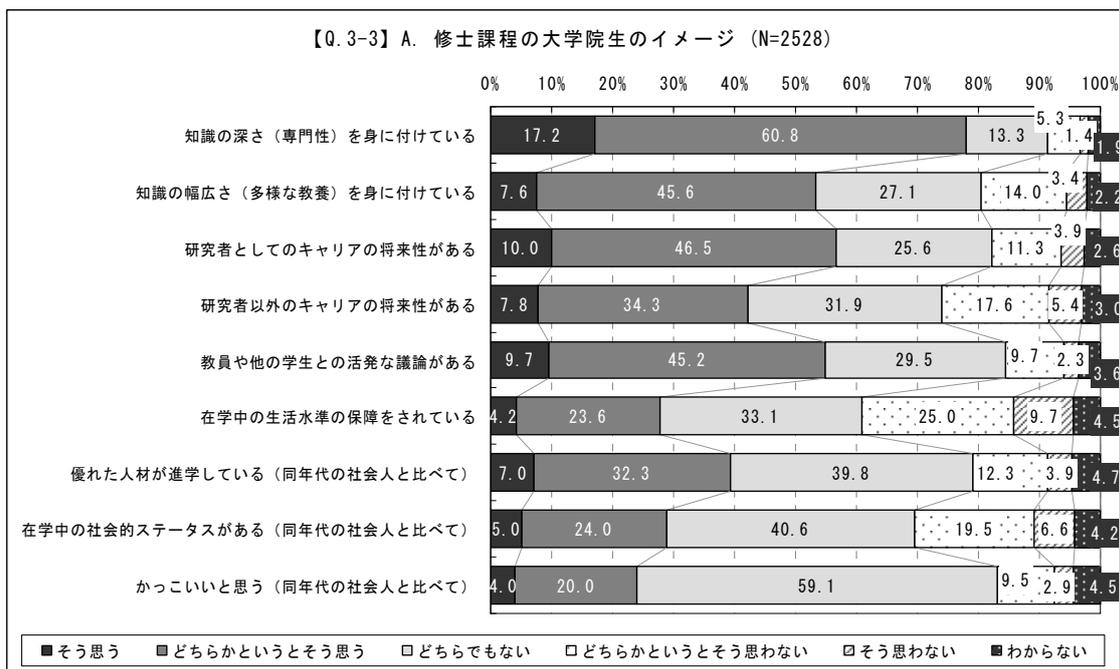
### 【Q.3-1】 A. 修士課程のイメージ



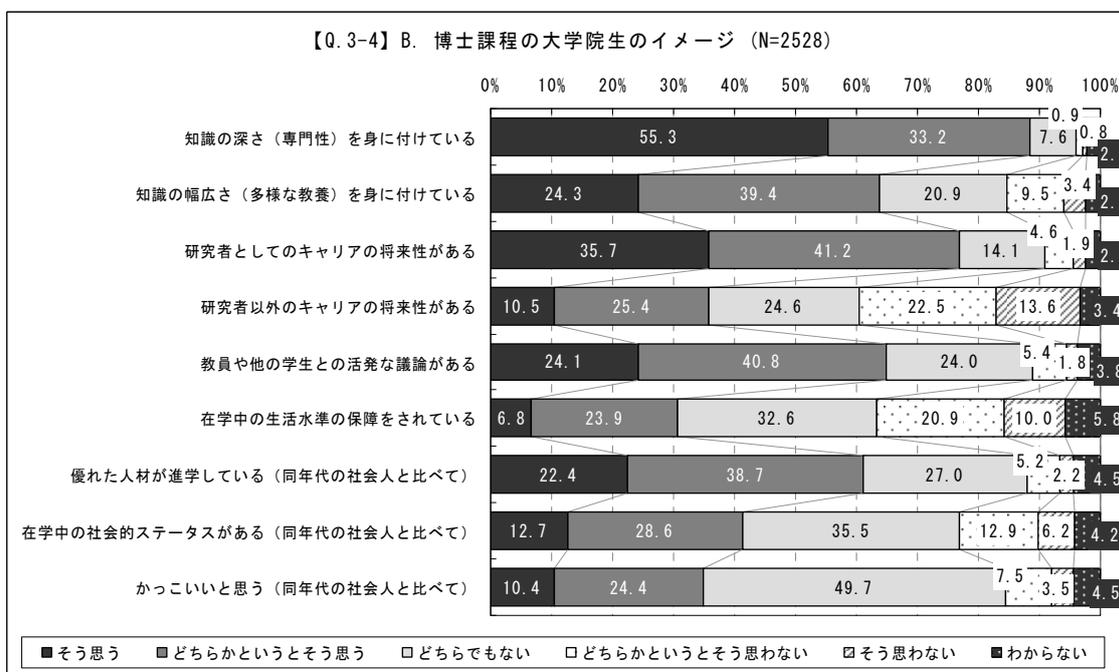
### 【Q.3-2】 B. 博士課程のイメージ



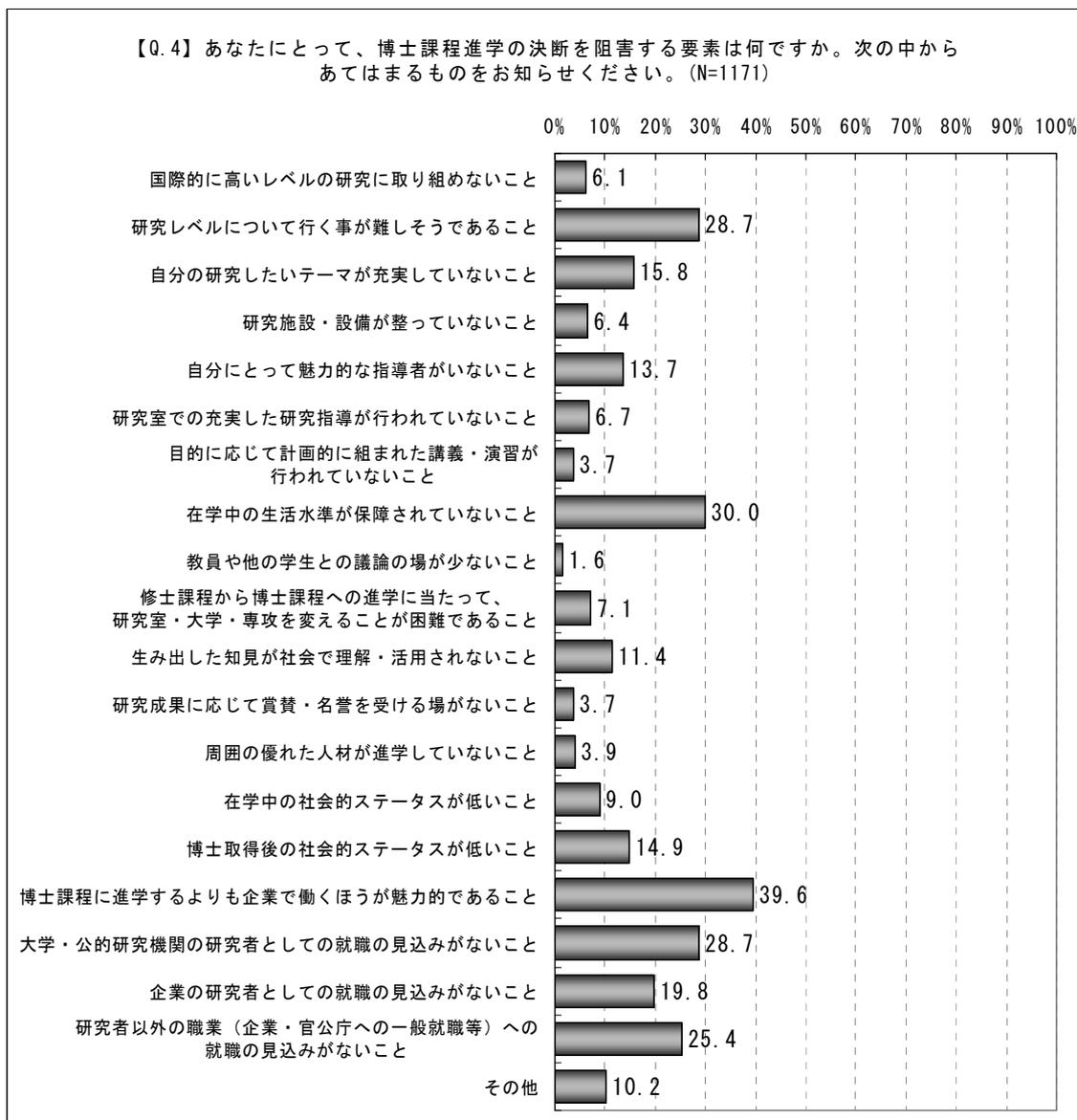
### 【Q.3-3】 A. 修士課程の大学院生のイメージ



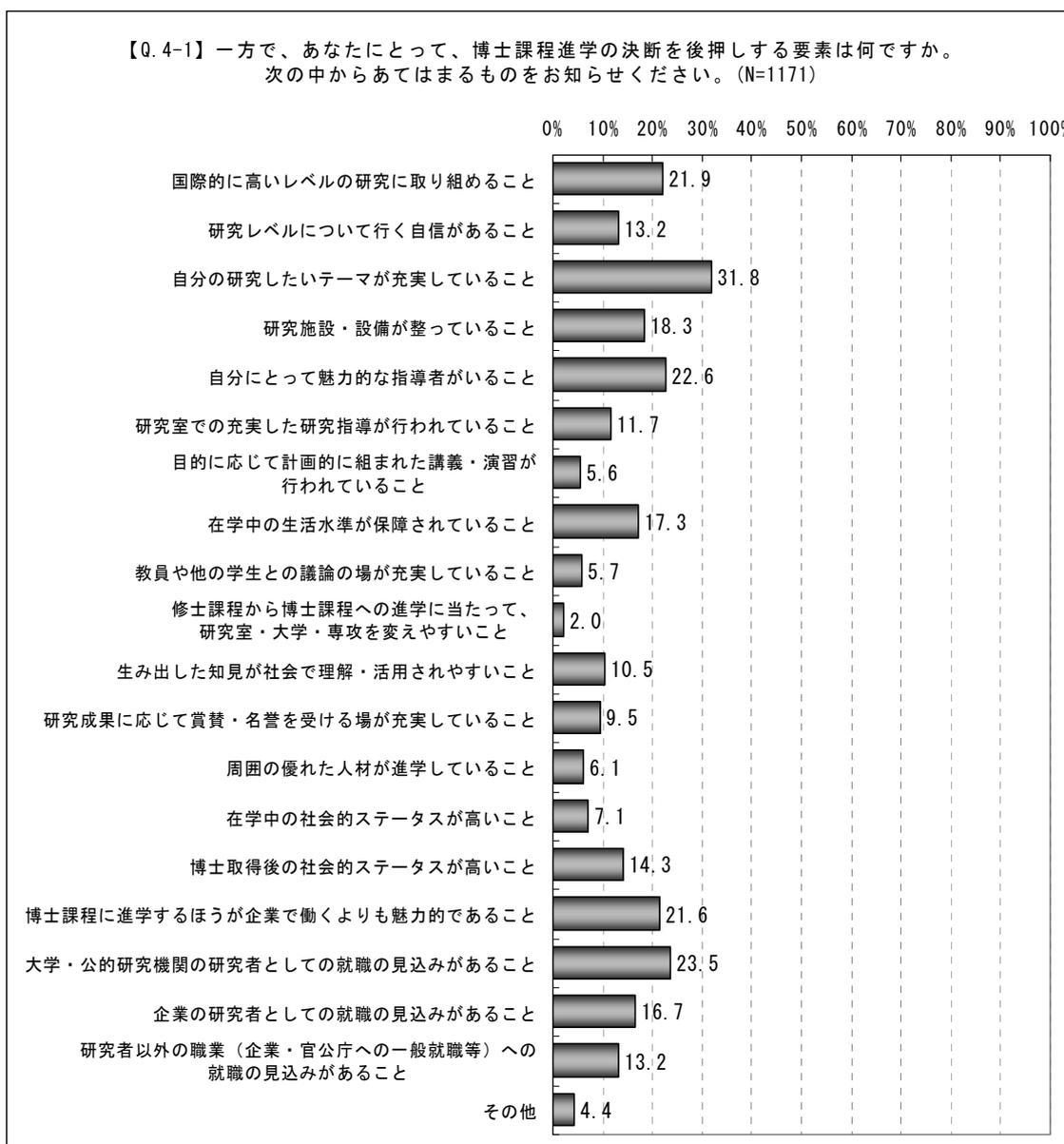
### 【Q.3-4】 B. 博士課程の大学院生のイメージ



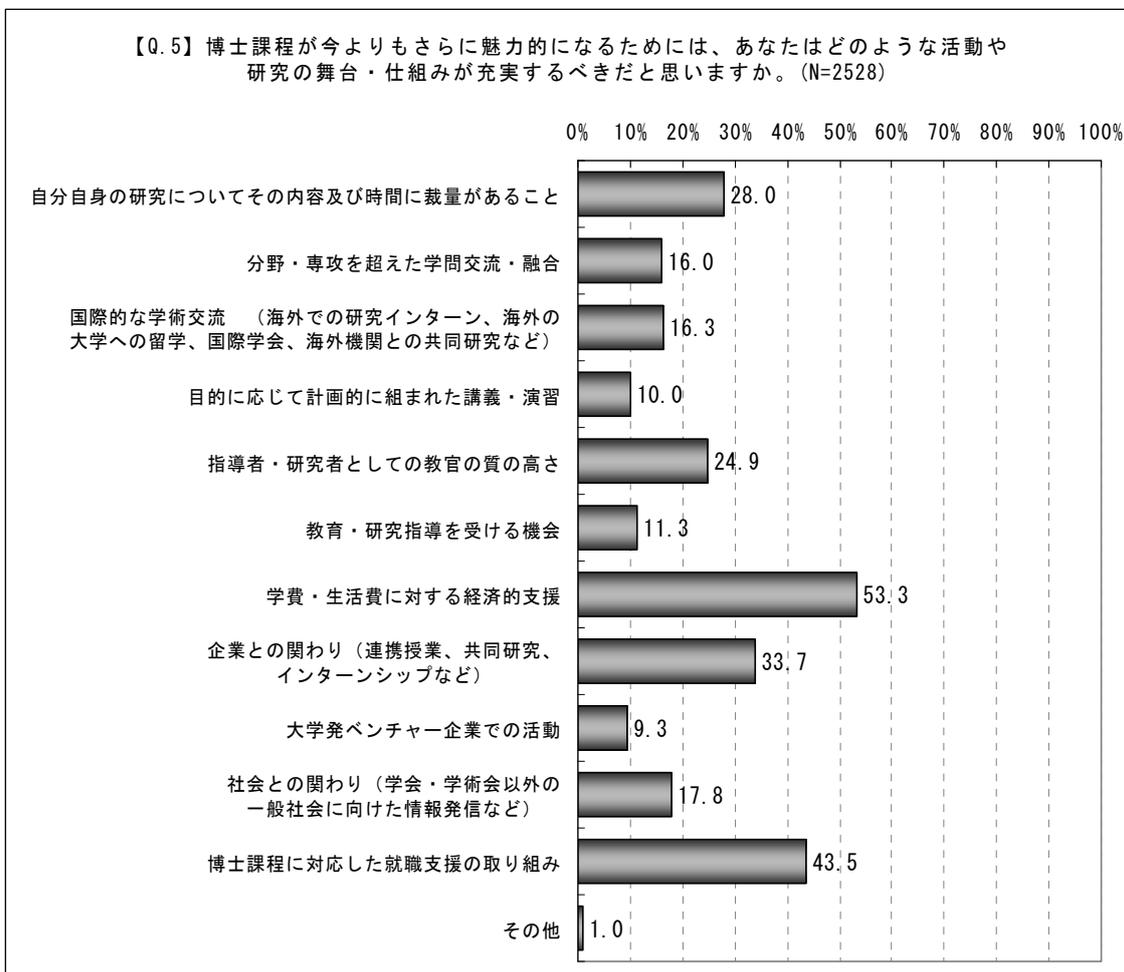
**【Q.4】あなたにとって、博士課程進学を決断を阻害する要素は何ですか。次の中からあてはまるものをお知らせください。（4つまで）**



【Q.4-1】一方で、あなたにとって、博士課程進学を決断を後押しする要素は何ですか。次の中からあてはまるものをお知らせください。(4つまで)



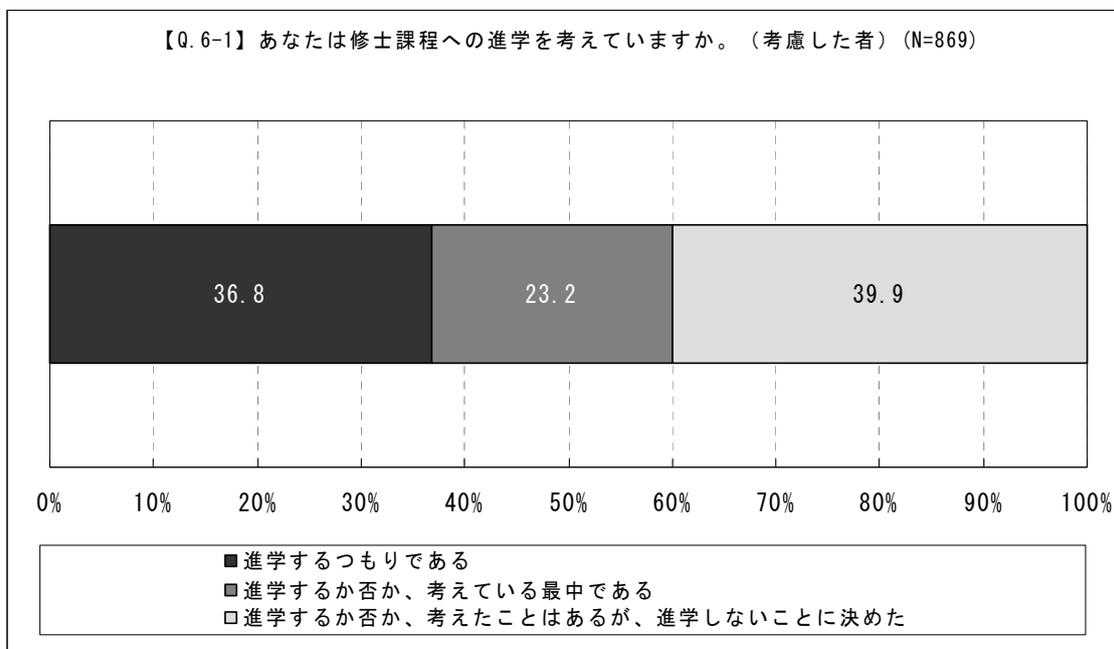
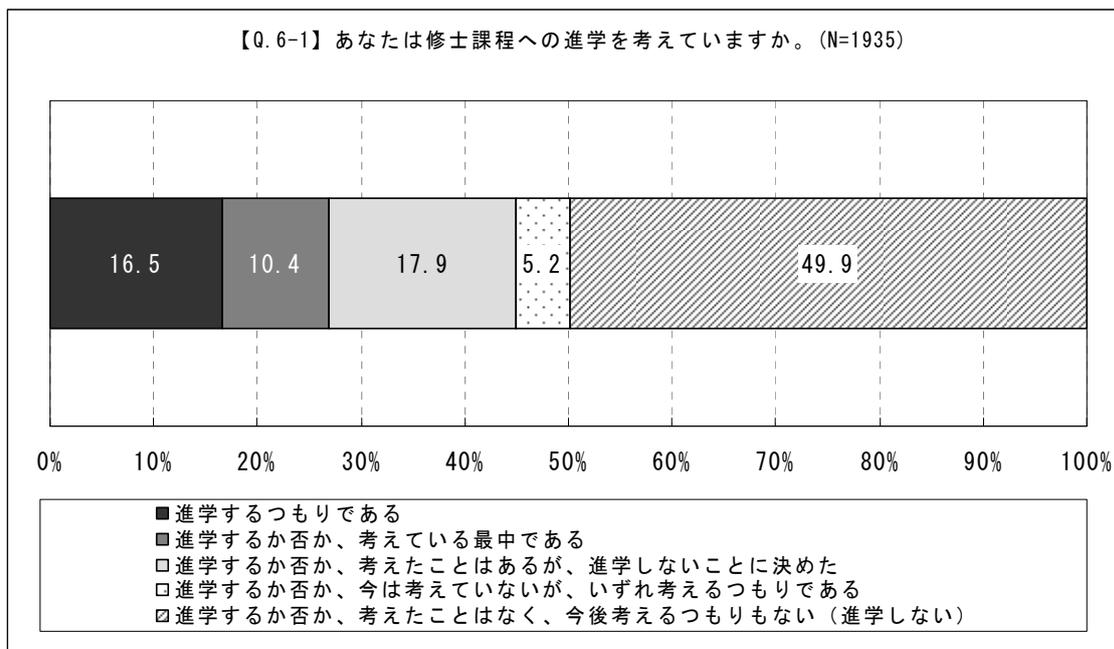
**【Q.5】博士課程が今よりもさらに魅力的になるためには、あなたはどのような活動や研究の舞台・仕組みが充実するべきだと思いますか。（3つまで）**



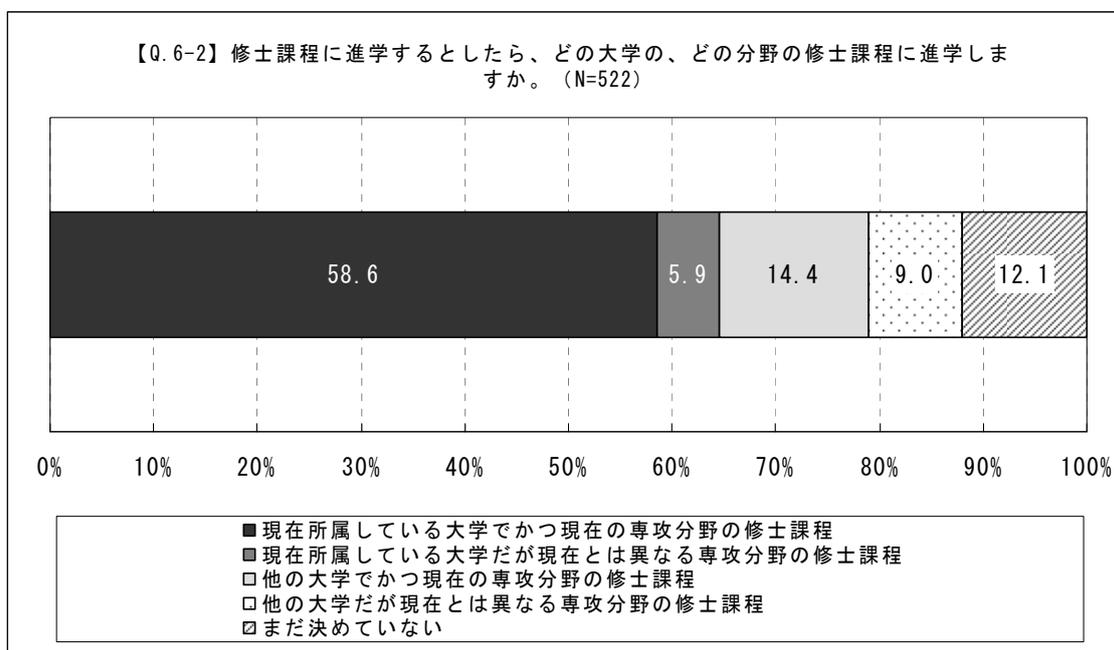
<大学院修士課程に関するイメージや考えについて>

※大学生(学部生)のみ対象

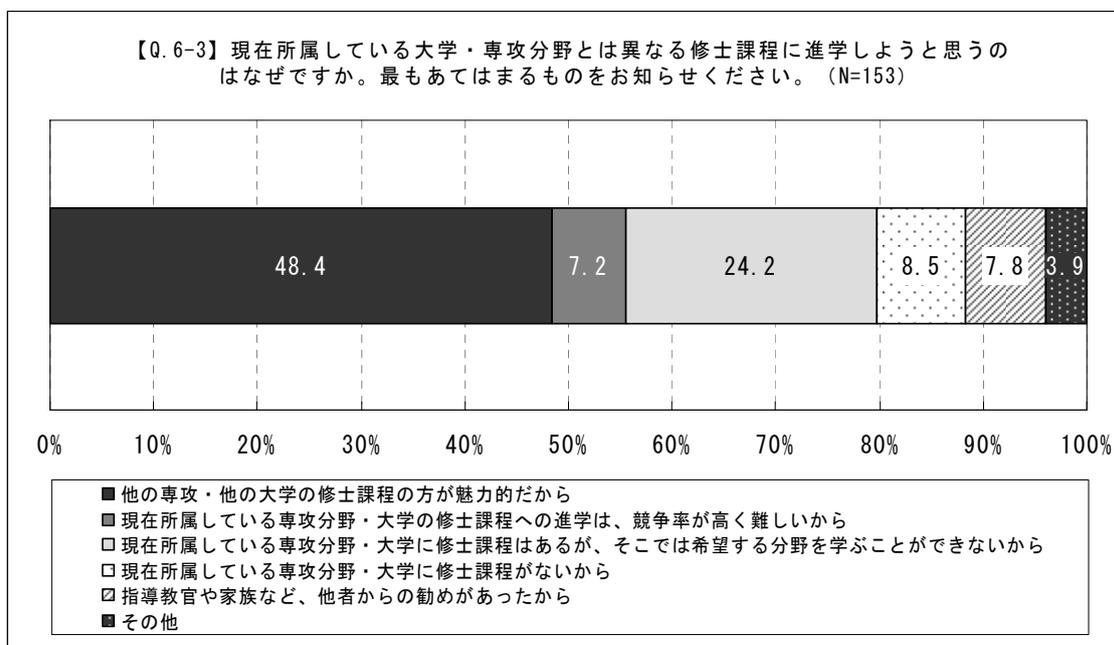
【Q.6-1】あなたは修士課程への進学を考えていますか。(ひとつだけ)



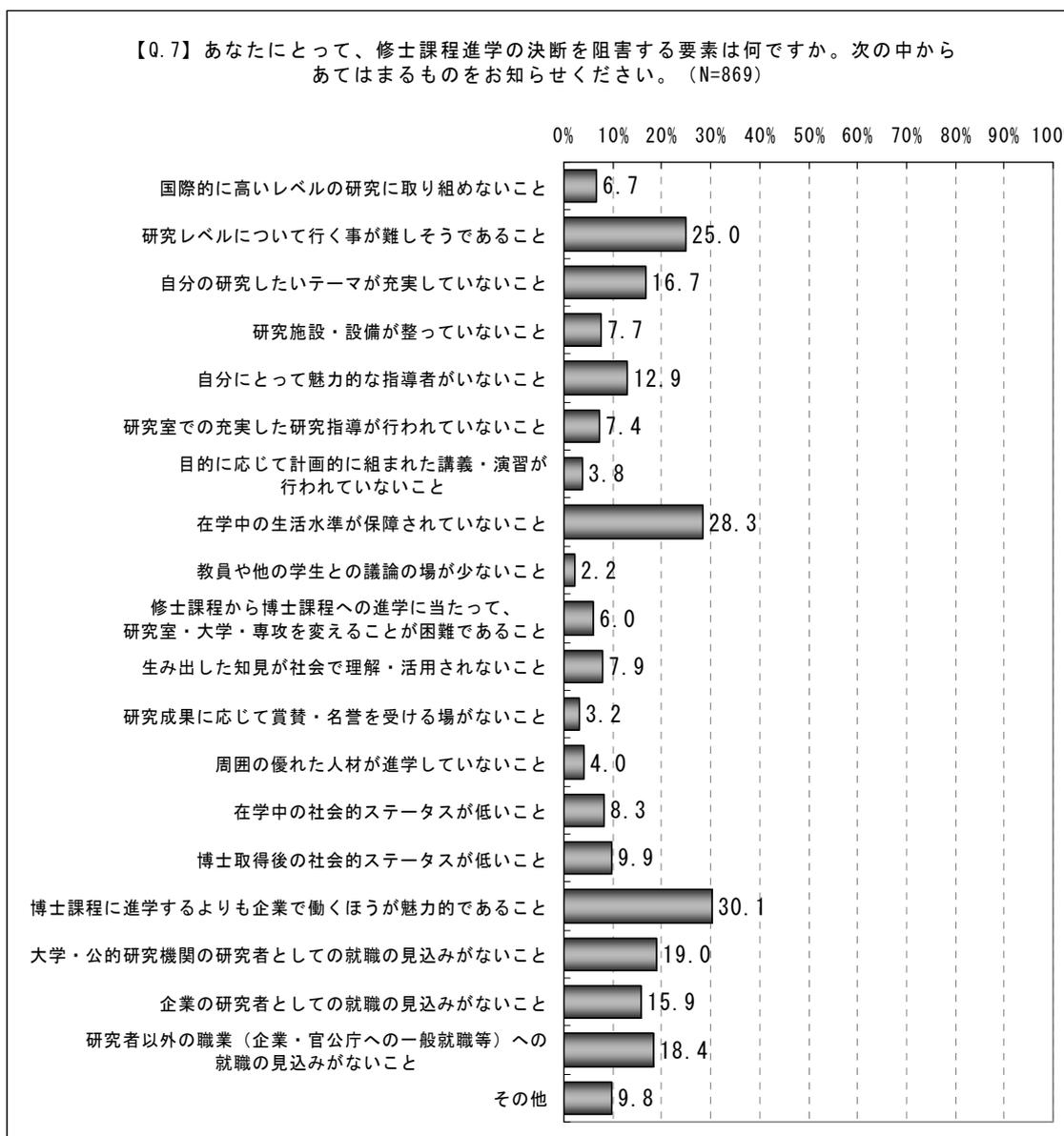
**【Q.6-2】修士課程に進学するとしたら、どの大学の、どの分野の修士課程に進学しますか。  
(ひとつだけ)**



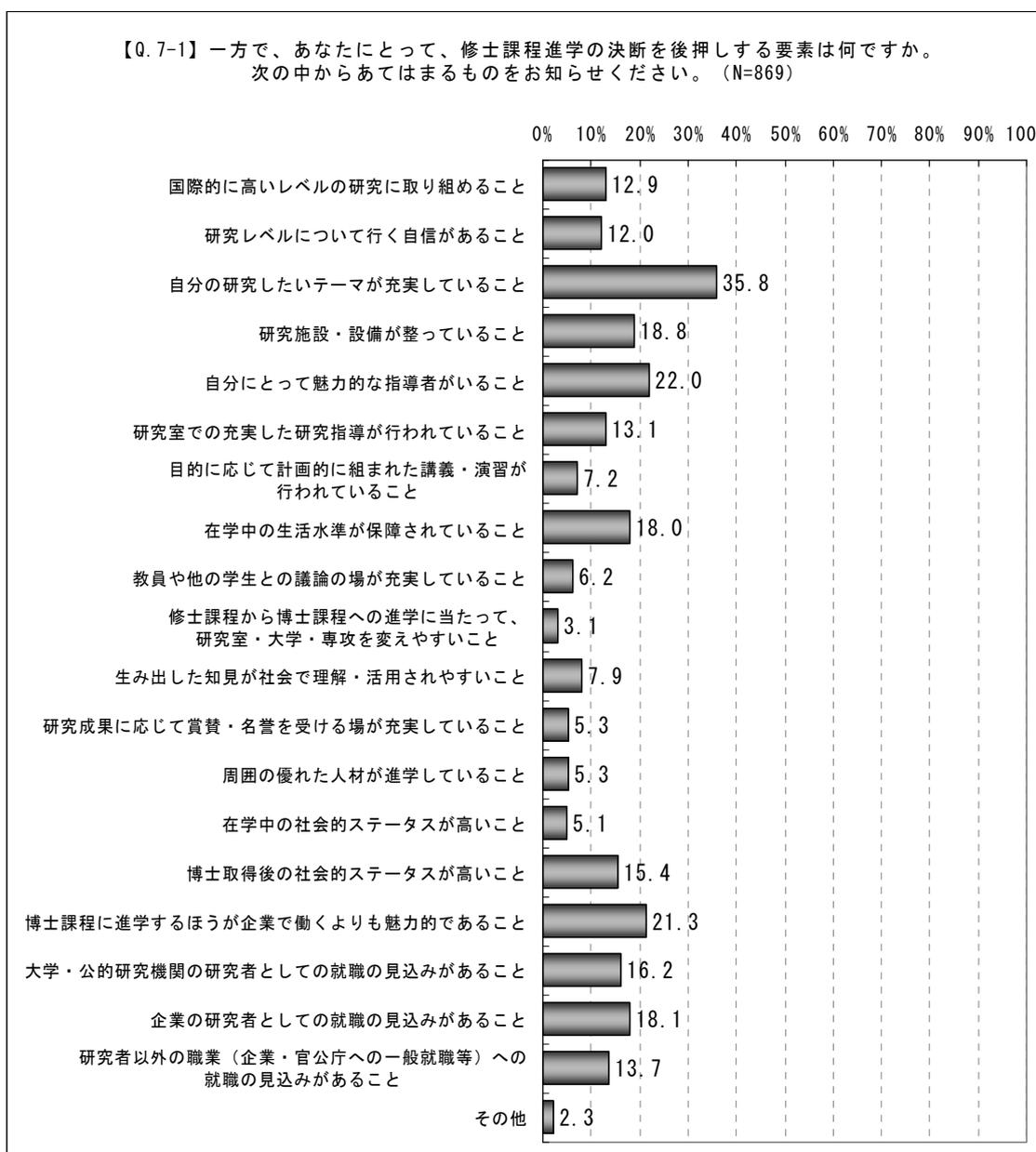
**【Q.6-3】 現在所属している大学・専攻分野とは異なる修士課程に進学しようと思うのはなぜですか。最もあてはまるものをお知らせください。(ひとつだけ)**



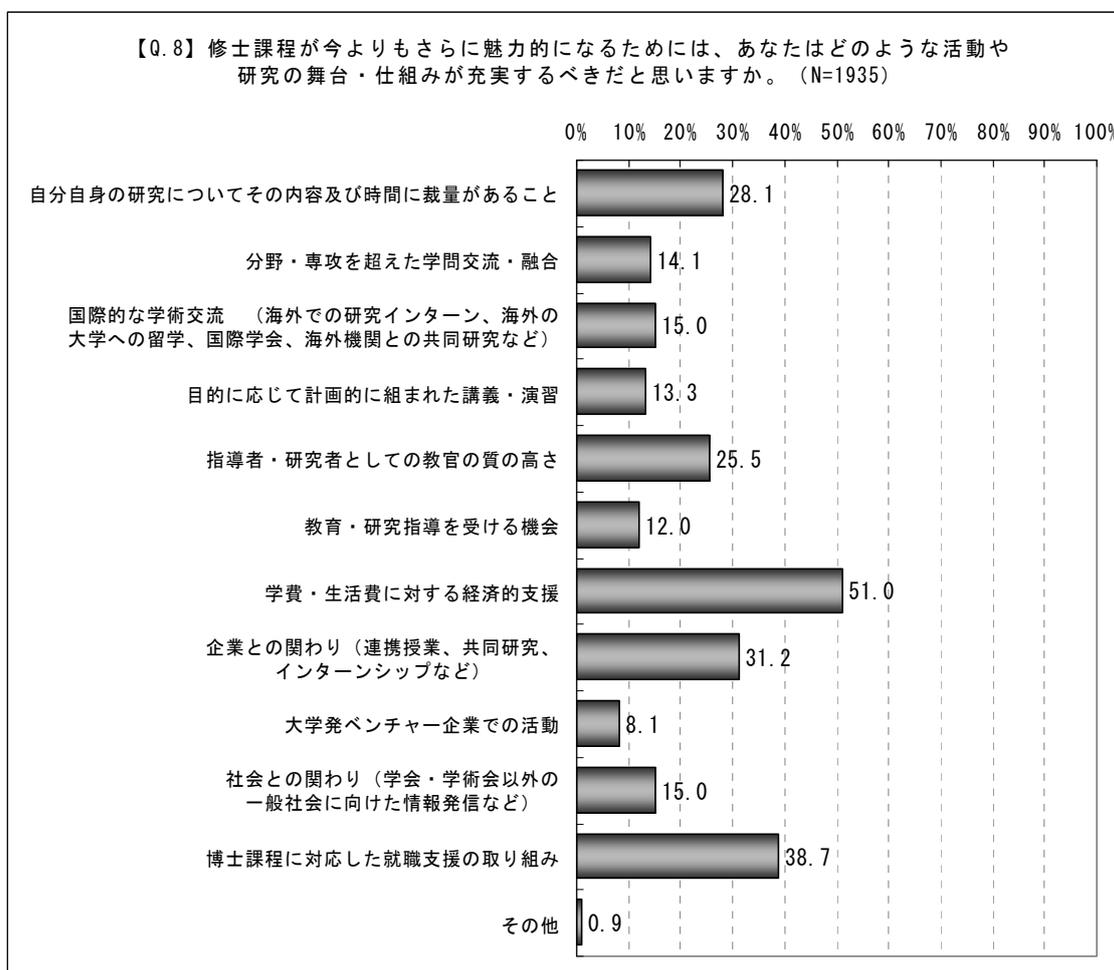
**【Q.7】あなたにとって、修士課程進学を決断を阻害する要素は何ですか。次の中からあてはまるものをお知らせください。（4つまで）**



【Q.7-1】一方で、あなたにとって、修士課程進学を決断を後押しする要素は何ですか。次の中からあてはまるものをお知らせください。（4つまで）

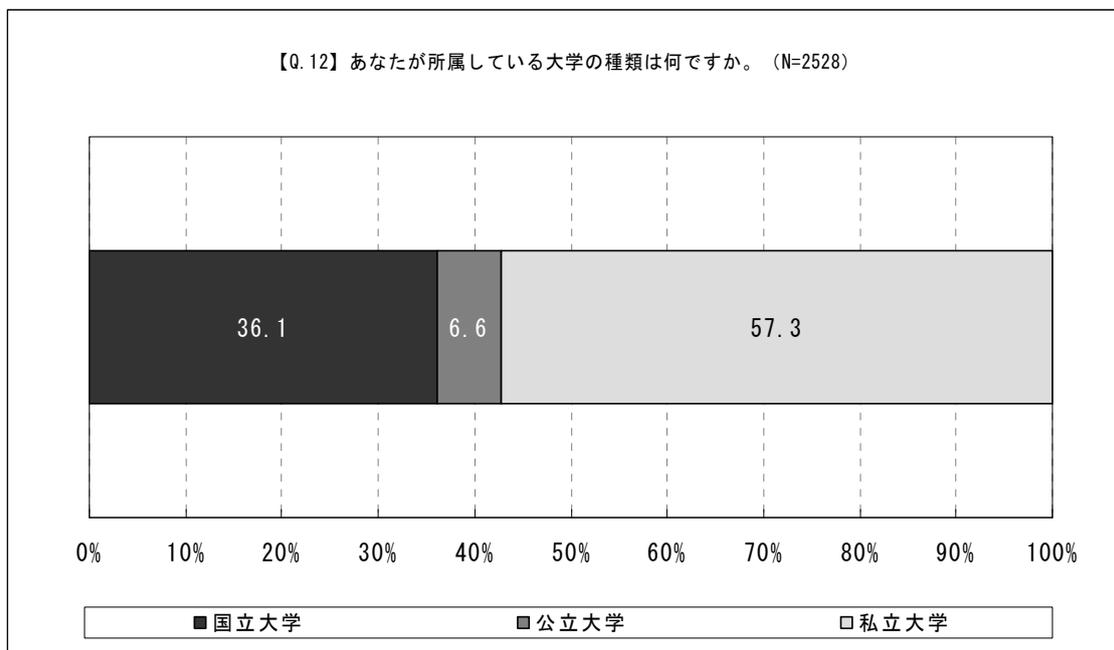


**【Q.8】** 修士課程が今よりもさらに魅力的になるためには、あなたはどのような活動や研究の舞台・仕組みが充実するべきだと思いますか。（3つまで）

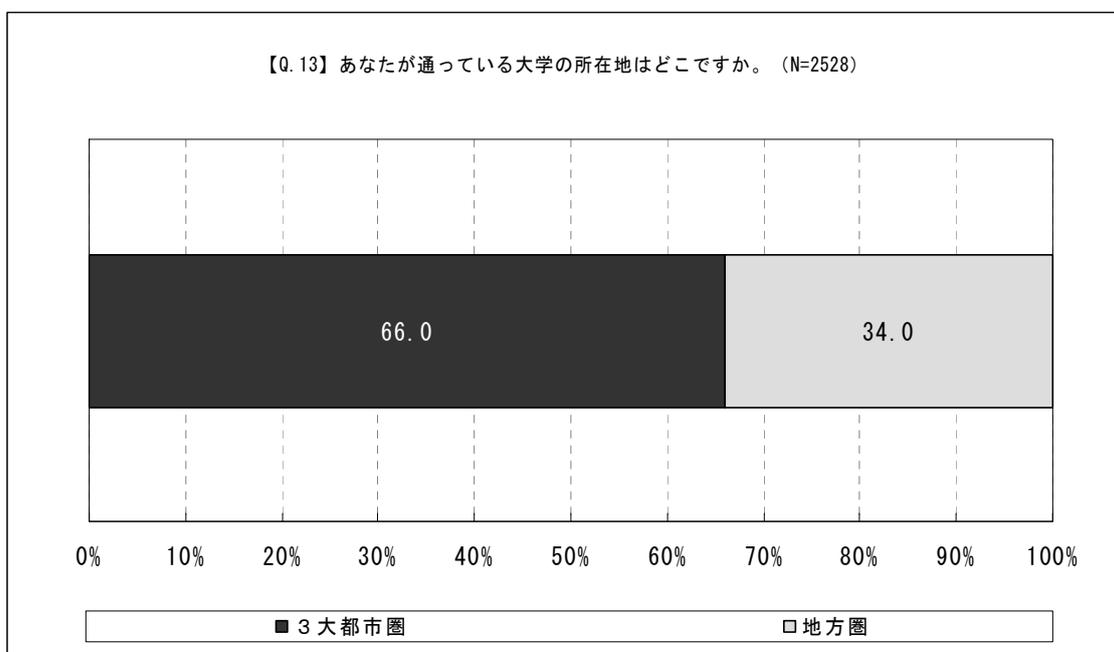


<属性-2>

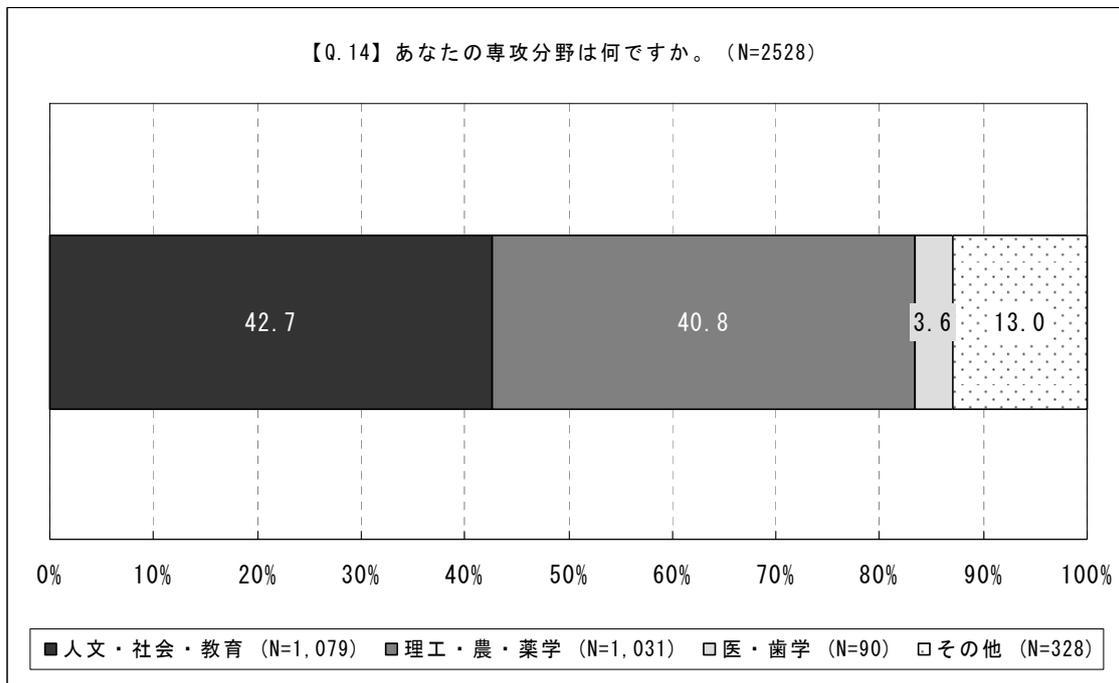
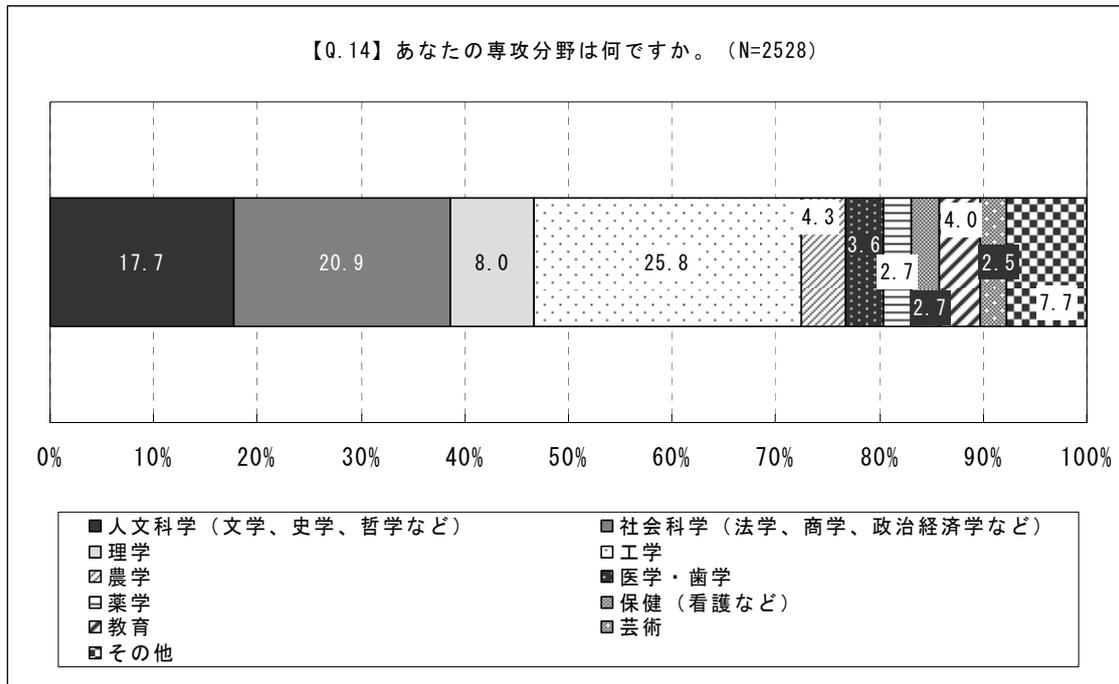
【Q.12】あなたが所属している大学の種類は何ですか。(ひとつだけ)



【Q.13】あなたが通っている大学の所在地はどこですか。(ひとつだけ)



【Q.14】 あなたの専攻分野は何ですか。(ひとつだけ)



**【Q.15】** あなたは社会人経験（官公庁・企業等に就職し、勤務した経験）がありますか。  
あるならば、それは何年間ですか。（ひとつだけ）

